6月府民劇場

共催／京都府・京都労演・京都新劇人の会

——70演劇行動京都公演——

7つの挿話によるII部構成

構成・総演出／藤沢 薫

出　演

劇　団　京　芸

人形劇団京芸

人　間　座

京都自立劇団協議会

1970年6月3日㈬4日㈭5日㈮ 6.30開演

京都府立文化芸術会館

主催／70演劇行動京都実行委員会

東・西日本リアリズム演劇会議

安保廃棄・沖縄無条件全面返還を要求し
民主勢力の統一と連帯を強めて
京都の民主府市政を発展させよう!!

演　出	藤沢　薫
	東　武司／木林朝道／谷ひろし／田畑　実
装　置	板矢真紀
	京都スタッフ・クラブ
照　明	尾川原　和雄
	財団法人 京都府文化事業団 照明スタッフ
効　果	青地瑛久
	佐々木従　河合正雄　増永昭人
舞台監督	内藤　隆
	谷田章三　永栄啓伸　橋本和子
小道具・衣裳協力	国鉄労働組合京都支部・安井病院　他

第 I 部

通　勤　路　　作／栗　木　英　章　　演出／藤　沢　　薫

5分前出勤，交通地獄・ラッシュアワーを労働者は急ぐ，急ぐ。何故こんなに急ぐのだ，誰のために，何のために ———

通勤途上の中年の労働者と若者の対話ではじまる。

男（中年の労働者）　野　崎　善　彦（劇団京芸）
若者（同じ職場の青年労働者）　波多野　光　一（同　上）

署　　名　　作／栗　木　英　章　　演出／木　村　朝　道

万博，コンピューター，超近代設備，驚くべき高度成長，だが，今日も町の片隅に，日がな一日金ぐりに，注文とりに，身一つで身体をはって走りまわる下請工場のおやじさん。ベトナム特需で「結構な仕事がつづいてる」はずなんだが ——— そこへ飛びこんだベトナム人民支援，戦争反対の署名とカンパを取りにまわっている青年 ——— 繰り返し，繰り返し，そしてまた繰り返されねばならない，ねばり強く。

父	竹　口　寛　一		（日電演劇部）
娘	松　瀬　京　子	（3日）	（演劇サークル「泥」）
	鶴　谷　りつ子	（4・5日）	（　同　上　）
男	木　村　朝　道		（　同　上　）

ある被爆者の死　　作・演出／田　畑　実　行

ひとりの，京都在住の，原爆被爆者の急死に材をとった構成詩劇。アメリカと日本政府の新しい核戦争準備を告発し，原水爆の全面禁止と，被爆者の完全援護をたたかいとるための，国民ひとりびとりの行動を強く訴える。

語り手	田　畑　　実	（人間座）
被爆者（男）	芦　田　鉄　雄	（同　上）
被爆者（女）	菱　井　喜美子	（同　上）

夜　　作／黒　沢　参　吉　　演出／東　　武　司

合理化の中で今日も労働者は傷つく。起重機のワイヤーがきれて……
瀕死の患者の枕頭で，破裂したシリンダーの水圧に殺された夫を思う　—看護婦 ——

深夜の病室。何故これが本人の不注意なのか，誰が ———

看護婦	山口桂子	(4日)	(劇団橋)
	足立富子	(3．5日)	(同上)
婦長	水島多恵子	(4日)	(同上)
	山中直美	(3．5日)	(同上)

第 II 部

人形ボードビル　星条旗永遠なれ　作／人形劇団京芸文芸部　演出／谷　ひろし

世界に誇る平和のシンボル，大空にへんぽんとはためくアメリカの星条旗。

その旗に，血がにじむ，ふいても，ふいても，洗っても，洗っても，その旗から血が，鮮血が，ふきだしてくる。

それはベトナム人民の血，その母と子の血。

けがれた星条旗が昇る，また，たかく，昇る。

お前はどこまで昇るのか。

その星がこぼれて，地におちることはないのか。

星条旗よ，お前はいつまで「永遠」でありうるのか。

出演　西川禎一，坂井のぶ子，井上文子，池端マリ子，石川たか子
(人形劇団　京芸)

小さな駅のある物語　作／島　源三　演出／藤沢　薫

あの臨時列車がこの小さな駅を通るようになって，なんか急に—— 台風がおこした土砂崩れで，今日も通ったその列車が立往生，無気味な冷凍車と危険品貨車を，嵐の中で構内郡線に移動する。アメリカ兵の銃口と公安を前に，国鉄労働者の心は赤く燃える。ベトナムで流された人民の血が，闘いの血が嵐の中で静かに，力強く蘇える。

伍長	(構内従業員)	市田真一	(簡保演劇部)
伝さ	(同上)	安井清	(ベレー)
女郎	(同上)	陽川成孝	(サークル「壁」)
カストロ	(同上)	谷田章三	(劇団橋)
駅長		小沢文也	(劇団京芸)
井田	(助役)	内脇義嗣	(日電演劇部)
前波	(公安室長)	浅貝勝	(簡保演劇部)
G I	(警備兵)	西島健三	(同上)

構内従事員　木村幸彦・生駒一郎・浜田弘・望月健　(簡保演劇部)

送　電　線　　作／広渡常敏　　演出／藤沢　薫

弾薬庫へ高圧電気が送られる。その送電線のナットをしめる。昨日，ベトナム兵器輸送反対に坐りこんだ労働者が，今日，ベトナム侵略反対の署名を集めた労働者が，ナットをしめる，電気を送る。

ナットを左へ廻わせば電気はとまる。だがそれで本当にとまるのか ———

ずるく，かしこく，頑強に，団結を強めよう！

今日，右へまわしたこのナットを，明日，おれたちの力で左に廻わすために，永遠に右に廻わさせないために！

年老いた労働者	藤沢　薫	(京　芸)
若い労働者	福島伸夫	(同　上)

—— 幕 ——

７０演劇行動京都公演の取り組みについて

藤　沢　　薫

１９６９年初頭，東西リアリズム演劇会議は来るべき安保固定期限終了に向って，その戦線を有効に組織してゆくため「演劇」を武器として闘う「７０演劇行動」の実施を決議しその準備にかかりました。

昨年末，全国から結集された戯曲は２６編，今年の４月から６月にかけて上演準備がすすむ中で戯曲の改稿，新たな創作もそれに加わって現在その一斉上演運動がおこなわれています。西日本では，九州（福岡），中国（広島），神戸，大阪，和歌山，京都の６地域で西日本リアリズム演劇会議の参加集団を中心に広く協力を訴えて取り組まれています。

日本の中立・平和をめざす政治的な統一行動がすすむ中で，全国各地で自主的，民主的な文化運動が進みはじめていますが，日米支配層の思想再編成，目にあまる文化の退廃化の現象がいよいよ顕著になって来ている今日，とくに労働者の文化活動の発展が一層重要となって来ています。

私たちは，この７０演劇行動を，単なる６月２３日の大統一行動のカンパニヤとして終らせるだけでなく，民主的な文化運動としての芸術的水準を高める確固とした足がかり，手がかりとするよう努めて来ました。沢山の短編戯曲は，７０年の日本状況を反映させるテーマをもって描かれていてこの活動に参加した作者の積極的な姿勢がうかがえます。しかしその中の半数近くがまだまだ完成途上ともいえ，改稿を要するものが数多くありました。またこの「演劇行動」を進めてゆく上でいろいろ解決しなければならない問題があり，なかなかエンジンがかからない状態もありました。戯曲を募集した段階では，まさに出発点であり上演企画の時点で本格的にこの仕事がはじまったのです。しかも，条件の違う劇団やサークルが共同で１つの仕事を進めてゆくのはやはり困難なことです。しかし当初に企画されたこの行動の意議を確認しながらねばり強く準備が進められて来ました。

「７０年安保」という政治課題と４つに組んで，全国的な統一行動の一環としての役割をはたしかも先進的な芸術運動としての水準にせまりたいという願いは，充分はたされたとはいい切れません。しかしこの仕事を働く者の自主的，民主的な演劇を発展させてゆく足がかりとし，７０年代の状況を切り開く強力な文化運動を展開してゆくテコにしてゆきたいと思っています。

特に，職場・地域の労働者による演劇サークルが，自立劇団協議会として全面的に参加をし，西リ演京都ブロックの諸劇団と共にこうした合同の仕事に取り組めたことは，今後に大きな可能性をきりひらいたといえます。働くもの自身の文化創造のエネルギーが，職場で地域で，その統一と団結の要となり，状況を大きく前進させてゆく意義こそ，かぎりなく大切だと思うのです。

多くの人々に支えられて公演を迎えたこの「演劇行動」が，知事選を勝利した京都の，そして全国の安保廃棄の闘いの限りない前進と統一の力になることを願っています。